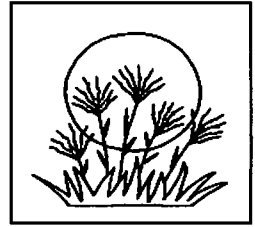


2011 年秋号

ぱらう 45号



発行：TEACCH プログラム研究会

<会長のつぶやき>

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫

3月11日の震災・津波から半年が過ぎた。あいかわらず毎週福島と東京を行ったり来たりしている。震災から半年がすぎて、表面的には日常の生活に戻ってきたように見える。しかしながら福島県、東北地方では多くの混乱が続いている。福島県の学校では放射能問題のため県外への転出する生徒がいるし、被災地からの転入生もいるし、年度初めには凍結されていた教師の人事異動もあつたりして、落ち着かない。地域によっては夏でも教室の窓が開けられない、校庭で遊べない、プールも使用できないなど非日常の状態が続き、散々な夏休みであった。

私たちの共通の目標である自閉症スペクトラムの人とその家族の支援についても、当然ながら震災・津波・放射能の影響が表れている。

大災害後の人々の心理状態は時期によって異なる。災害直後の茫然自失の状態、その後のいわゆるハネムーン期(劇的な体験を潜り抜けたことで被災者同士が強い連帯感で結ばれ、被災地全体が暖かい雰囲気になる)、幻滅期(支援の遅れや行政の対応への不満が高まり、飲酒問題や対人関係のトラブルが目立ちだす)を経て再建期に入るといわれている。

福島にいと確かに震災直後のハネムーン期は過ぎ去ったことが実感される。もともと不十分であった自閉症のサービスがさらに減ってしまった。そのため震災前には多少なりとも提供されていた自閉症支援が受けられず忍耐の限界に達している子どももいる。被災した支援者が多いことや放射能問題、雇用問題、経済的な問題などが関係しており問題は複雑である。

放射能問題の終結が見えないまま、幻滅期をなんとか短くして再建に向かい、日々の支援ができるように戻していきたい。

災害時の自閉症支援について何か先人のデータがないものかと思い、色々なデータベースを探してみた。さらに英国自閉症協会やTEACCH部の人にも聞いてみたが、あまりデータはなかった。これだけ大規模な災害は世界の歴史の中でもまれである。自閉症支援の先進地域である英国や北欧、北米には大地震や大津波の経験はほとんどないそうである。

今回の大災害で、どのように自閉症スペクトラムの人たちを支援するかは、私たちが実際に活動するなかで考えていかねばならない。ありがたいことに日本各地から多くの専門家が支援に東北地方に来て下さっているし、TEACCH 研の関係者もがんばっている。支援者同士で情報交換を密にしながら、実際に被災地域の自閉症スペクトラムの人たちに役立つ支援をしていきたい。被災地の自閉症支援はこれからが正念場なのである。

第3回コラボレーションセミナーによろこそ！

TEACCH 部との相互協力(コラボレーション)を通じて自閉症の人の支援の向上を目指して始めたコラボレーションセミナーが3回目を迎えます。今回は長年にわたり TEACCH 部の部長を努められたゲーリー・メジボフ先生とディスカッションします。テーマは高機能自閉症スペクトラムの人たちの生涯にわたる支援です。メジボフ先生は、すでに1984年に高機能の青年のソーシャルクラブ活動を論文報告されています。このように長期にわたる TEACCH の実践を指導されてきたメジボフ先生と、私たちの支援実践について議論しましょう。

TEACCH プログラム研究会会長 内山登紀夫

とき: 2012年2月18日(土)、19日(日)

ところ 京都染織会館 シルクホール

講師: ゲーリー・メジボフ博士 (ノースカロライナ大学、TEACCH 部前ディレクター)

※ 通訳あり(重松加代子氏)

参加費 TEACCHプログラム研究会会員: 5,000円、一般: 10,000円

テーマ: 高機能自閉症スペクトラムの人への生涯にわたる支援
～幼児期から成人期まで～

プログラム:

1日目 講演(午前・午後)

「アスペルガー症候群や高機能自閉症の青年・成人への生涯にわたる支援
～教育的支援、人としての成長を支える支援～」

2日目 実践報告とディスカッション

「高機能自閉症スペクトラムの人への生涯にわたる支援」

TEACCH プログラム研究会会員から、日本の実践を報告し、メジボフ先生と情報や意見の交換を行います。

※詳しくは同封の案内パンフをご覧ください。

平成24年度総会のご案内

日時: 平成24年2月18日(土)16:30～17:00

場所: 京都シルクホール

☆大事なみなさんの会費執行状況や本部の活動について報告します。

ぜひご参加ください。



平成23年度第2回理事会報告

平成23年度第2回理事会は、

平成23年6月18日(土)13:30～17:00に、メルパルク京都 研修室にて行われました。

参加者:内山、村松、宇山、楢原、茶木(黒田代)、五味、中井、笠合、小川、藤井、丸田、大西、森田、草原、内田、三ヶ田、進藤、岡本、井上、濱田(会計)

この理事会での決定事項および継続審議事項についてお知らせいたします。

議案1. 2011年愛知実践研究大会の報告

全体のまとめ、会計報告について小川理事より報告され、その内容について理事会にて承認された。1年前から会場を予約確保する必要があることから、次回より、開催支部が決定した時点で、本部より開催支部に運営費を送ることとなった。

議案2. 2012年コラボレーションセミナーについて

2012年2月18日(土)19日(日)に、京都シルクホールにて開催されるコラボレーションセミナーの実践報告候補について内容検討した結果、4題が決定された。

- 全体テーマ「高機能自閉症スペクトラムの人たちの生涯にわたる支援」
- 実践報告とディスカッション「高機能自閉症スペクトラムの人への支援」

議案3. 2012年鳥取トレーニングセミナーについて

2012年7月27日(金)～29日(日)に、米子コンベンションセンターにて実施されることが、森田理事より報告された。

議案4. ぷらう45号(2011年秋号)について

記事の分担と発行のスケジュールについて岡本理事より提案され、確認された。

議案5. HP開設(業者委託)について

宇山理事より、各支部のブログとリンクする形で新しいHP作成を業者に委託しており、今年度中に開設できる見込みであるとの報告があった。

議案6. 特別会計の使途について

第1回理事会からの継続審議事項として話し合われ、トレセミ・グッズ購入・管理費支出(50万円:理事会にて承認済み)以外に、本部から支部への助成金(30～50万円:支部より企画立案の上申し込む)、実践研究大会やコラボレーションセミナー実践研究発表者への助成金、WEB会議できるシステムへの設備投資など、さまざまな案が出され、総務委員会で継続審議することとなった。

議案7. 法人化について

任意団体である研究会もNPO法人もしくは社団法人など、法人化する必要性が出てきているのであれば、具体的に検討していくことを理事会にて共通理解し、まず専門家の意見を参考に総務委員会で審議することとなった。

議案8. その他

- ・総務委員会を開催し、法人化の必要性や特別会計の使途について審議することとなった。
- ・平成24年度第1回理事会:2012年2月17日(金)18:00-21:00に、メルパルク京都にておこなわれることとなった。



HP 担当よりお知らせ

ホームページは11月中旬の完成を目指してリニューアル作業中です。
もうしばらくお待ちください。

今回のパスワードは、**yonaga**

(前回と変更ありません)になります。

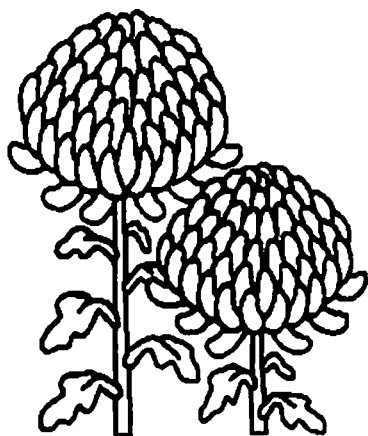


第 17 回 トレーニングセミナー in 鳥取

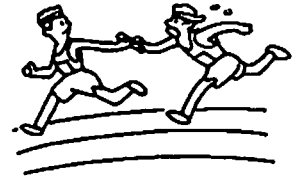
日時:平成 24 年 7 月 27 日(金)~29 日(日)

場所:米子コンベンションセンター BiG SHIP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町 294(米子駅から徒歩 5 分)
TEL 0859-35-8111 FAX 0859-39-0700



列島リレ〜



《京都支部》

京都支部は、2006年 京滋支部から独立し「京都支部」として、新たにスタートしました。

京都では、自閉症に関連する様々な団体が、様々な研修会を開催されていますが、これまでと同様に、共催・後援といった形で各団体と連携を取り、研修内容や日程の調整を行い、それぞれの持ち味を活かした運営を実施しています。

その中で、TEACCHプログラム研究会の持ち味は、「日々の実践の中での喜び・悩み・疑問」等を語り合う中で、お互いの実践を高めていける、刺激し合える場を提供していくことではないかと考えています。保護者・就学前・学校・成人・医療 などといった様々な機関の方々が年齢・立場を超えて、違った視点から学び、語り合える場であればと考え、例会は、保護者・就学前～中・成人とテーマを決めて隔月で開催しています。

現在は、会員数の割に参加者が少なく(会員外の参加もあります)、少し寂しいのですが 少人数だからこそ、悩みや失敗談も交えた素直な気持ちも表現できる、本音が話せる場になるのではないかと考えています。そして、「明日から私も頑張ろう!」と元気をもらう場になればと期待もしています。今後も相互交流の場となることを大切に、活動していきたいと思っています。

そして・・・日本の真ん中辺りに位置し、全国的にも有名なこの地「京都」だからこそその幸せ!! 来年2月の「TEACCHコラボレーションセミナー2012」もまたこの京都で開催されます。運営スタッフとして、皆さまをお迎えし、想いを同じく生き活きと活躍されている仲間に出会える日を楽しみにしています。雪が積もらないことを願いつつ、寒さの厳しい京都です。しっかり着こんで是非『京都へおこしやす』

《大阪支部》

大阪支部は設立して11年になります。当初は近畿で1つであった関西支部が各地域で支部を立ち上げることになり、京滋支部(後に京都支部と滋賀支部へ分離)と大阪支部に別れて運営していくことになりました。2004年にはゲーリー・メジボブ教授とキャサリン・フェハティ先生を講師にお迎えして開催された「TEACCHカンファレンス in 大阪」の実行委員を京滋支部の方たちとともに務め、1000名を超える方にご参加いただいたことがとても印象に残っています。

現在、大阪支部は大阪府下と近隣の都市にお住まいの会員204名で構成されています。人数的にはまだまだ大所帯ですが、近年は月例会への定期的な参加者がだんだん少なくなりさびしい状況になってきているのが現状です。

設立当初は、基礎講座シリーズと隔年におこなうミニトレーニングセミナー、実践発表といった形で1年間の講座を企画・実施していましたが、ニーズの変化にともない、知ったかぶりはやめようシリーズ等年間テーマを見直す、就労支援を実践されている方をゲストスピーカーにお招きしてお話を伺う機会を設ける、年一度公開講座を開催し、自閉症診断・評価・支援の第一人者の方々に来ていただき地域の方たちとともに学ぶ機会を設ける等を実施してきました。今年度の公開講座には満を持して内山先生に来ていただくことができ、ご家族はもちろん、医療、教育、療育、就労、福祉等本当に幅広い領域の支援者の方々がたくさん参加されました。

10年前は研究会に出かけていかないと新しい情報が得られにくい状況でしたが、インターネットで家にいながらにして世界の状況も最新の支援方法も知ることができ、研修会やセミナーで発達障害の特性や支援方法について学ぶ機会も増えてきている今、研究会へのニーズも変わってきていることをひしひしと感じるこの頃です。

一般の若い学生さんたちにも参加していただきやすくするべくワンコイン参加の学割制を導入し、平成12年度は1年間会員の例会・公開講座参加費無料キャンペーンをはるなど、会費の面でも参加しやすい方法を試みる予定です。TEACCHの基本的な理念に立ちかえり、大阪支部も現在の大阪にマッチした研究会の在り方を探り、参加しやすくとともに学べるより良い研究会を目指して進化していきたいと思っております。

(文責:井上 芳子)

